

2023年11月28日(火)開催

カナダ NGO 来日セミナー「輸入木質ペレットの真実 – カナダのペレット生産と森林への影響」 質疑応答

URL: <https://www.gef.or.jp/news/event/231128canadabiomasseseminar/>

【質問①】

1994年にBC州の森林問題取材したときは、当時、反対運動も大きく、規制も厳しくなり、皆伐もなくなったと思っていたが、それ以降・最近の州の規制はどうなっていたのか？

また、将来的に伐採量が減り、ペレット供給もかなり厳しくなるという話だったが、企業や先住民に対する州政府の規制強化の動きが強まっているということなのか？

【質問②】

フォート・ネルソンで計画されているペレット工場の展望は？

【質問③】

日本や韓国への木質ペレットの輸出が増えている。このままでは、森林がなくなってしまうのではないかと、という問題が一つある。一方で、BC州政府の規制や政策が厳しくなって輸入ができなくなる、という可能性はどれほどあるのか？

【質問④】

BC州ではなぜ原生林が伐採されるのか？また、それに対する、BC州政府の取り組みはどうなっているのか？

【質問⑤】

先住民族が受ける被害があったのか？先住民族の土地で、無同意で原生林が切られるということがあったのか？

【質問⑥】

森林認証制度、特にFSCの土地転換禁止の規則（※）がBC州の原生林保護に機能していないのはなぜか？

**【質問①】**

1994年にBC州の森林問題を取材したときは、当時、反対運動も大きく、規制も厳しくなり、皆伐もなくなったと思っていたが、それ以降・最近の州の規制はどうなっていたのか？

また、将来的に伐採量が減り、ペレット供給もかなり厳しくなるという話だったが、企業や先住民に対する州政府の規制強化の動きが強まっているということなのか？

**コノリー氏 (Conservation North) :**

伐採に関する規制の有無についてですが、20年ほど前にBC州の政府が変わり、すでにある程度レベルだった既存の規則を覆しました。

BC州では現在、「**プロフェッショナル・リライアンス (Professional Reliance)**」と呼ばれる制度の下で運営されています。つまり、政府は現場で操業する企業に関する厳格な規則をほとんど撤廃し、森林の専門家が個々の決定を下し、現場で起きていることを承認できるようにしたのです。

私のプレゼンテーションでも述べたように、「プロフェッショナル・フォレストリー (professional forestry)」で問題になるのは、「何をどのように伐採するか」ということだけです。**生態学的価値や野生生物の生息地の問題は考えず**、森林の損失や破壊の多くは、自由党政権が誕生してこのルールが変更された後、ここ数十年の間に起こっています。そして、そのルールが再び変更されることはありませんでした。

BC州では、企業が操業する環境に対して過度に自由放任であり、それがBC州の問題の一因だと私は考えています。

**パーフィット氏 (Canadian Center for Policy Alternatives) :**

プロフェッショナル・リライアンスの導入以前は、BC州にはかなり規範的な林業法がありました。それが効果的であったかどうかは議論の余地がありますが、それが存在していたのは事実です。

もっと厳しい規則があったのですが、2000年代初頭に廃止され、「プロフェッショナル・リライアンス」に移行した際に廃止されました。

その結果、コノリー氏が話すようなブリティッシュ・コロンビア州の生物多様性への悪影響だけでなく、水資源や水文学的状況に多大な悪影響を及ぼし、多くの問題を引き起こしています。

州政府が最近行ったいくつかの変更によって、水資源の面では希望が持てるかもしれませんが、物事をより良い方向に進めるためには、より一層取り組みを先に進める必要があります。

**【質問②】フォート・ネルソンで計画されているペレット工場の展望は？****パーフィット氏 :**

フォートネルソンは最後のフロンティアのひとつですが、この巨大なペレット工場事業は、実際には実現しないかもしれません。

その提案は3年前になされました。まだ実現には至っていませんし、実現しない可能性もあると思います。州内でも反対の声は大きくなっています。

この地域には、開発されていない原生林で最大規模のものが広がっています。ですから、そこに関心が集まるのは明らかです。

そして、このプロジェクトを進めることが賢明かどうかについて、地域内でも意見が分かれています。

### 【質問③】

**日本や韓国への木質ペレットの輸出が増えている。このままでは、森林がなくなってしまうのではないか、という問題がある。一方で、BC州政府の規制や政策が厳しくなって輸入ができなくなる、という可能性はどれほどあるのか？**

**コノリー氏：**

産業伐採の長い歴史を持つこの州では、**現在、森林のほとんどが二次林**となっています。

そのような、産業活動が行われ、道路が整備され、伐採が行われた部分において、持続可能な方法で伐採する方法は存在します。

もっとも、二次林由来の物をバイオマスに使うべきだとまでは言うつもりはありません。しかし、正しいことを行い、原生林を適切に保護することで、復元可能な土地はたくさんあり、将来的にはそこから資源を得ることができるかもしれません。

**過去に開発・搾取された土地の責任ある管理。**これが、私たちのグループが推奨していることです。

原生林は再生不可能ですが、樹木は再生可能です。BC州の大部分で樹木は再生し始めています。ですから理論的には、正しい方法で行われる限り、将来的にはそれらの森林から資源を採取することができるはずですが。

しかし残念なことに、**BC州の体制と基本的政策は、「すべての原生林を人工林に置き換える」というものです。**残念なことに、BC州ではそのような後進的なシステムが採用されています。私たちはそれを積極的に阻止しようとしているのです。

BC州には、将来的にいろいろなことに利用できる土地が（原生林以外に）あります。それが私たちの目指すことです。

**パーフィット氏：**

BC州には、原生林がなくなってしまったため、「二次林」あるいは「三次林」と呼ばれる土地や、「プランテーション」と呼ばれる土地が広大に存在しています。

すべてではありませんが、適切に管理されたこれらの土地の一部は、木部繊維（wood fiber）の供給源として利用されるべきだと思います。

アメリカ南東部では、ペレット産業によって利用されている木質繊維が大量にあります。その土地の管理方法について、南東部では多くの論争がありますが、その土地の多くはプランテーションであり、かなり長い間プ

ランテーションとして管理され、製材産業、パルプ産業、そして現在はペレット産業に繊維を供給してきたからです。

ペレット産業が及ぼす影響について、その地域で多くの論争や怒りの声が上がっている事実を軽視するつもりはありません。

しかし、**ブリティッシュ・コロンビア州では、以前伐採された土地の一部を木質繊維の供給源として管理することができます。**

そして、他の部分を他の目的で管理することが必要です。例えば、流域の回復、地域社会への健全な水供給の回復、特定の野生生物種が将来その土地に生息できるようにするための管理などです。伐採が長期間にわたって、「個体数の減少」という多大な悪影響を及ぼしてきたためです。

過去に伐採された土地すべてをプランテーションとして利用すべきとは思いませんが、一部はそうすることもできるでしょう。

#### 【質問④】

**BC 州ではなぜ原生林が伐採されるのか？また、それに対する、BC 州政府の取り組みはどうなっているのか？**

コノリー氏：

過去 30 年あまりの間、森林を保護しようとする積極的な動きがあり、BC 州もようやく変わり始めました。

パーフィット氏：

原生林の伐採はなぜ起きているのか？一言で言えば、お金です。

BC 州の森林を伐採することで、人々は大金を手にしたのです。BC 州で過去最高の利益が記録されたのは 2 年前です。

ここで忘れてはならないのは、企業は木材に投資して利益を得ているが、彼らが木を植えたわけではないということです。彼らが森林を整備したわけではありません。森は元からそこにあったのです。

それは自然が私たちに与えてくれたものです。一度限りで与えられたものですが、そこに莫大な金銭的価値があったからこそ、このようなこと（原生林伐採）が起こったのです。

その資源はとても貴重で、とても魅力的な伐採対象でした。それが全ての原動力です。

例えば、政府を動かしました。**政府は、伐採産業から政府への支払いという形で莫大な収入を得ていた年もありました。政府は事実上、木を所有しているのです。伐採された木に対して、政府に支払われるお金というがあります。**

そして大企業の懐を何十億ドルという規模で潤してきました。つまり、本当にお金の問題なのです。

老齢林や原生林の伐採が終わると、状況は大きく変わります。今、残っているのはプランテーションです。

巨万の富を築いた企業は今、ブリティッシュ・コロンビア州を去ろうとしています。そして、彼らは投資資金をアメリカ南部に移しています。なぜなら南部のプランテーションの木々は、カナダで育つのに比べて、ほんのわずかな時間で成長するからです。

つまり、私たちは、**BCにおいて、森林が失われたというだけでなく、企業が撤退するのを見てきたのです。**

企業が進出し、森林を伐採し、製材し、その企業が撤退することで、農村地域や先住民のコミュニティが壊滅的な打撃を受けるのを目の当たりにしてきました。

すべては金のためであり、老齢林や原生林の資源を奪った後は、投資資金を、より手っ取り早く儲けられる場所に移動するという事なのです。

#### 【質問⑤】

**先住民が受ける被害があったのか？先住民の土地で、無同意で原生林が切られるということがあったのか？**

コノリー氏：

BC州では、50年代から60年代にかけて、ファースト・ネーション（先住民）が産業的林業経済に組み込まれてきました。そのため、彼らはしばしば独自のライセンスを持っています。自分たちの工場を持っていることもあります。

伝統とつながりを保っているコミュニティメンバーは、工業的な土地開発に抵抗することが多いのですが、どのコミュニティにも常に二面性があります。

BC州は地理的に非常に多様であるため、204の異なる先住民コミュニティがあります。そのため、**先住民が原生林伐採や産業を支持しているのか、一概には言えません。**

私のコミュニティ・グループの立場は、現時点では、原生林の産業伐採は誰がやるかにかかわらず悪い考えであり、先住民コミュニティが保全を望んでいるのであれば、彼らの土地を守るための資金援助やその他の奨励策を大いに支持しています。

しかし私たちは、原生林の伐採がもたらす生態系の問題を、たとえそれが先住民コミュニティによって行われるものであったとしても、指摘し続けたいと思います。

私たちにとって、それは客観的に見て間違っているからです。

ですから、伐採とペレットに関して、BC州の先住民コミュニティについて一般化することはできません。

パーフィット氏：

**州政府は老齢林の伐採延期を発表したことに加えて、保護が強化された場合、影響を受ける先住民に金銭的補償を行うべきだと明確に認識していることが重要です。**

伐採にある程度関与している先住民が多いという事実については、彼らの決定、つまり原生林を伐採するという決定を、その背景を考慮に入れて考える必要があります。

原生林の伐採は、彼らの伝統的な土地の半分以上がすでに伐採された後に行われてきました。

つまり、彼らの決断は、「他人が伐採するのを傍観し、自分たちは少しも得をしないのか」、それとも「自分たち自身が残りの森林の伐採に関わるのか」のどちらかだったのです。

私の考えでは、その決断を下した先住民族を批判することはできません。どのような伐採が行われようと、それが原生林の破壊や生物多様性の喪失につながるのであれば、批判することはできるし、そうすべきでしょう。それを誰がやっているかは関係ありません。

そして、自分たちの土地から資源を搾取されたという点で、最も苦しんでいる先住民族の人々に対しては、その土地が保護されることに対する金銭的補償がなされるべきだと考えます。

そのために、政府はまず3億ドルを拠出すると発表し、正しい方向に向けて大きな一歩を踏み出しました。もっと、拠出額を増やす必要があるでしょう。

そして、これらの土地を保護することを選択した先住民族には、伐採から除外された土地に対する十分な補償がなされるべきです。

#### 【質問⑥】

#### 森林認証制度、特に FSC の土地転換禁止の規則（※）が BC 州の原生林保護に機能していないのはなぜか？

FSC が原生林の伐採を認証するのは非常に大きな問題です。FSC には「保護価値の高い森林」というカテゴリーがあります。それがどういう基準で決められているのか、私は良く知りません。

つまり、彼らが「保護価値の高い森林」と定義するのは、原生林の一部ということになります。

私の考えでは、保護価値の低い原生林など存在しません。原生林は、今、とても希少になっているからです。

※注) FSC 原則 6 の 10 は、「森林を植林や他の土地利用へ転換させてはならない。」とあり、「但し、下記の場合を除く：(・・・) b) 保護価値の高い森林区域が除かれている場合」と続く。

(以上)